第一話　大東亜戦争の呼称決定について

昭和 16 年 12 月 8 日、開戦の詔勅（米國及英國ニ對スル宣戰ノ詔書)によって日本は米・英に宣戦布告し、マレー上陸作戦と真珠湾攻撃を敢行した。

殆どの日本人は、この日が大東亜戦争の戦端が開かれた日であると錯覚している。太平洋戦争（GHQ により大東亜戦争との呼称の使用は禁止され、太平洋戦争と呼ぶことを強制された。確かに米国にとっては太平洋戦域での戦いではあったが、・・）と呼ぶ者も多いが、第一話として「大東亜戦争」との呼称についてみてみたい。

（開戦の詔書）

戦争の呼称と言うのは、戦争目的や理念にもかかわる基本的なものである。「欧米諸国によるアジアの植民地を解放し、大東亜共栄圏を設立してアジアの自立を目指す」という理念と構想を元に始まった日本の戦争であり大東亜戦争と呼ぶべきものであり、正式に閣議決定された由緒正しい名称である。

昭和 16 年 12 月 10 日の大本営政府連絡会議（注 1）において、「今次戦争ノ呼称並ニ平戦時ノ分界時期ニ関スル件」を決定、「支那事変ヲモ含メ大東亜戦争ト呼称ス」とされた。それを受けて、12 月 12 日に開かれた東条内閣の閣議において、「今次戦争ノ呼称並ニ平戦時ノ分界時期等ニ付テ」が閣議決定された。

この閣議決定の第 1 項で「今次ノ對米英戰爭及今後情勢ノ推移ニ伴ヒ生起スルコトアルヘキ戰爭ハ支那事變ヲモ含メ大東亞戰爭ト呼稱ス」と明記し、支那事変と「対米英戦争」を合わせた戦争呼称としての「大東亜戦争」が公式に決定したのである。

尚、盧溝橋事件を発端とする日中の交戦状態は当初「北支事変」と呼ばれたが、その後「支那事変」と呼称されるようになった。（日支両国共に思惑があって、宣戦布告をしなかったので国際的には「事変」と呼ばれる。）

従って、盧溝橋事件が惹起した昭和 12 年（1937）7 月 7 日が大東亜戦争の開始日である。

参考乍ら、（公財）大東亜戦全戦没者慰霊団体協議会が毎年靖国神社で斎行している合同慰霊祭は、基本的に支那事変の惹起した 7 月 7 日に近い日に行っている。

注１：大本営政府連絡会議

軍の運用を議する大本営と行政を管掌する政府首脳の意思疎通、政戦一致を図る会議である。当時は軍と政府が並立していたので、このようなシステムが必要であった。

注２：大東亜の地理的範囲は？

どこまでの範囲を指すのかが、実は不分明である。英語では、Greater East Asia となっているが、松岡外相は、南北では豪、ニューカレドニア以北の東亜、東西はビルマから蘭領東インドまでと答えたという。

（第一話　了）